

山王台だより 11月号



横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL 045 (755) 1107

奇跡の出会い「学級」

副校長 佐久間 宣朝

寒い日が続き、秋が駆け足で行ってしまいそうな季節です。

先日の運動会は、記録的な勢力の台風の接近や秋雨前線の影響による天候不順などにより2度の延期となり、保護者・地域の皆様に多大なご心配、ご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。それにもかかわらず、ご多用のなか、たくさんの保護者、ご来賓の皆様のご来校をいただき、盛大に開催することができました。心より感謝申し上げます。

今年の運動会は、天候不順のために、練習が思うようにできませんでした。そうした状況のなか、当日の子どもたちは、たくさんの輝きと感動を見せてくれました。演技、競技ともに全力を出し切ったことを感じさせてくれるものだったと思いました。その様子は、裏面でぜひご覧ください。

私が特に心に残ったのは得点発表のときからの応援団長の姿でした。得点発表が終わる前から団長が感極まっていたように見えました。そして、わずか4点差の赤組の優勝。優勝杯、準優勝盾の授与に台上に上がった二人の姿を見て、私も本当に感動してしまいました。それほど思いを温めて今日のこの瞬間を迎えたのだということを感じました。

数年前、私の中学校の同窓会がありました。久しぶりということもあり、初めは誰か分からない人もいました。しかし、次第に記憶がよみがえり、懐かしい話ことができました。しばらくすると、小学校時代に同級生だった人と話す機会がありました。その同級生とはほとんど話したこともなく、同じグループで活動したこともなかったように記憶しています。その時のクラスでは私はあまり目立たず、きっと覚えていないだろうと思って話をすると、私のことを覚えていてくれたのです。そればかりか国語の授業での私の発言を覚えていてくれました。また、そのクラスで私が頑張っていたことも話してくれました。小学校を卒業して何十年もたち、自分も忘れていたことを、その同級生は覚えていてくれたのです。そのことにとっても驚き、そして嬉しさとともに感謝の気持ちが湧いてきました。毎日、普通に過ごしてきた学級でしたが、同じ学級になれたその出会いは奇跡であり、そこで重ねた日々は、かけがえのない宝物であったことを感じました。そんな経験を子どもたちに伝え、今暮らしている学級の友達との出会いを大切にしたいと思っています。

今、子どもたちは、学級の中でたくさんの日々を過ごし、奇跡の出会いを築いています。その出会いを素晴らしいものに演出できるように、子どもたちをバックアップしていきたいです。